

## 当院におけるがん患者就労支援の取り組みと今後の課題

### 1. 背景及び研究実施の意義・必要性

医療技術の進歩によりこれまで予後不良とされてきた疾患の生存率が向上していることなどを背景に、治療をしながら仕事を続けることを希望する就業者のニーズが高くなってきている。特に近年、がん患者の就業継続の問題がクローズアップされている。がんを抱える就業者に働く意欲や能力があっても、治療と仕事の両立を支援する環境が十分に整っておらず、就業を継続したり、休職後に復職することが困難な状況にある。当院では、2014年にがん患者の職場復帰や治療と就労の両立を支援することを目的として治療就労両立支援部を設置した。

### 2. 研究の目的

治療就労両立支援部における介入事例を振り返り今後の課題を明らかにすることを目的とする。

### 3. 研究の評価項目

- ・ 就労支援を必要としたがん患者の背景と支援内容およびその成果

### 4. 研究計画・研究デザイン

就労支援を行った事例について、年齢、性別、がん種、治療内容、雇用形態(正規・派遣・パートタイム・嘱託・自営)を後方視的に調査・解析する。主治医/産業医の連携状況や就労支援の成果について詳細に検討する。また、十分な支援ができなかった事例について、その原因を検討する。

### 5. 研究における倫理的配慮

・ 特定の個人を識別することのできないようにデータ収集を行うため、個人情報特定される等の危険性は少ないと考えられる。具体的な対策として、患者氏名、イニシャル、生年月日、会社名など個人が特定される表現はせず、分析を行う。

・ この課題は患者への侵襲や人体から取得された試料の利用がなく既存の診療情報等の情報を用いた研究となる。

- ・ 研究の概要を当院の掲示板やホームページなどに公開して、研究対象者が自身の情

報を本研究に利用されることを拒否する機会を保証する。

#### 6. 研究期間

2021年3月から2023年3月まで

#### 7. 研究実施者および連絡先

研究代表者：

富山労災病院 腫瘍内科 菓子井達彦

分担研究者（代表）：

富山労災病院 看護部 原 直子